

明日が少し楽しみになる人へ

現在、給食委員会が企画してくれています先生方のリクエスト曲、3年生への応援ソングということで楽しみに聞いています。歌にはとても強いメッセージ性がありますよね。また、3年生の教室にあるカウントダウンカレンダーをこっそりと拝見すると、「不安もあると思うけど、ここまで頑張ってきた自分を信じて！！試験の時も深呼吸を忘れずに自分の力をちゃんと出せば大丈夫。いつも通り。自分らしく頑張っね。」と書かれていて、とてもエモい気持ちになりました。（他にも素敵なメッセージがあり、また紹介します…）私も給食委員のリクエストの紙にコメントをお願いされましたが、正直何を書こうか迷いました。実は、先日リクエストで紹介したものとは違うことを最初書いていました。せっくなのでこの通信を通じて、インスピレーションで先に浮かんだ方を紹介します。

「もっとも偉大な事柄も成就するのだ。」

この言葉を残したのは、「スイスの聖者」と呼ばれた思想家カール・ヒルティ。彼の著書「眠られぬ夜のために」の中にある一文です。ヒルティは、人生の幸福についてたびたび語りました。「人間はだれ一人として幸福を求めないものはない」「弱点を克服したとき、最も偉大な力が生まれる」「寝るとき、翌朝起きるのが楽しみな人は幸福である」どれも難しい言葉ではありません。けれど、深く考えると、とても重い。みなさんは、夜布団に入るとき、「明日がちょっと楽しみだ」と思えるでしょうか。

このヒルティの言葉が引用されている本があります。それが「甲子園への遺言」という1冊です。主人公は、伝説の打撃コーチ 高畠導宏 さんです。プロ野球の世界で35年間。数えきれないほどの選手と向き合い、30人以上のタイトルホルダーを育てました。一流を育てた人。勝負の世界を知り尽くした人。ところが50代半ば、彼は突然決意します。「高校教師になりたい。」すでに実績も名声もある。それでも、ゼロから勉強を始めました。通信教育で学び直し、5年かけて教員免許を取得。社会科教師として教壇に立ち、甲子園を目指しました。結果よりも、その姿勢が、多くの人の心を打ちました。挑戦に、遅すぎることはない。学ぶことに、終わりはない。それを、自分の人生で示したのです。

高畠さんは太宰府市立太宰府中学校で、「豊かな人生を過ごすには」というテーマで講演をおこなっています。高畠さんは、中学生に問いかけました。「豊かな人生を送るには、どうしたらいいだろう？」そして、長年の経験から“伸びる人の共通点”を7つ挙げました。

1. 素直であること
2. 好奇心旺盛であること
3. あきらめないこと
4. 準備を怠らないこと
5. 几帳面であること
6. 気配りができること
7. 夢を持ち、目標を高く設定できること

どれも特別な才能ではありません。

足が速い、とか。記憶力がずば抜けている、とか。そういう話ではない。「姿勢」の話です。伸びる人は、人の話を素直に聞く。地味な準備を毎日続ける。うまくいなくても投げ出さない。その

積み重ねが、ある日、大きな差になる。才能があるから伸びるのではない。伸びる姿勢を持っているから、結果がついてくる。

ある中学生は、この講演を聞いてこう書きました。「やり通すこと。目標を実現するには、努力が必要だと分かりました。」シンプルです。でも、本質です。途中でやめるのは簡単。言い訳を探すのも簡単。けれど、やり通した経験は、一生、自分を支える。結果がどうであれ、「最後までやった」と言えること。それが、自信になるのではないのでしょうか。

ヒルティもこのように言い残しました。「人間の最も偉大な力とは、その一番の弱点を克服したところから生まれる。」いま、自分の弱点が気になっている人へ。苦手な教科。自信のない性格。うまくいかない人間関係。それは、伸びしろです。弱点を見ないふりをするのではなく、少しずつ向き合うこと。逃げないこと。そこから、本当の力は生まれる。と・・・

豊かな人生とは、お金の量でも、賞状の数でもない。今日より少し前に進めたと思えること。目標に向かっていく実感があること。そして、夜眠るとき、「明日も続きがある」と思えること。中学生のみなさん。いまは不安もあるでしょう。迷いもあるでしょう。でも大丈夫。素直に学び、準備を重ね、あきらめず、夢を高くもつ。それを続けていけばいい。もっとも偉大な事柄も、やがて成就するのです。まずは、明日が少し楽しみになる一歩から。

旗をもう一本、持てる人へ

先日22日にフィナーレを迎えたミラノ・コルティナ五輪。その開会式でのことです。入場行進で、日本選手団は日の丸だけでなく、開催国イタリアの国旗も手にして歩いていました。たったそれだけのこと。けれど、その光景に多くの人が心を動かされました。なぜでしょう。



オリンピックは、国と国が競い合う舞台です。国旗は誇りであり、背負ってきた努力の象徴です。その場で、「自分の国の旗」だけでなく、「迎えてくれた国の旗」も掲げる。それは、勝ち負けとは関係のない行為です。記録にも、順位にも、直接は繋がらない。けれどそこには、とても大切な姿勢が込められています。ここで戦わせてもらう。ここに立たせてもらっている。その気持ちです。みなさんは、どんな旗を持っていますか？

3年生のみなさん。もうすぐ、この学校を卒業しますね。これから先、新しい場所へ進む人もいれば、慣れ親しんだ環境を離れる人もいるでしょう。そのとき、みなさんは何を背負っていきますか。努力してきた時間。仲間と笑い合った思い出。うまくいかなかった悔しさ。それは、みなさん自身の「旗」です。でも、もう一本、持てる旗があります。それは——支えてくれた人への敬意です。家族。友だち。先生。この場所。自分一人でここまで来た人は、いません。

卒業は、終わりではない

卒業は、別れの日でもありますが、同時に「次の舞台への入場行進」です。新しい環境では、思うようにいかないこともあるでしょう。悔しいことも、理不尽に感じることもあるかもしれない。でも、忘れないでください。いままでの努力は消えません。あなたが積み重ねた日々は、確実にあなたの中にあります。だからこそ、胸を張っていい。そして、もう一本の旗を持ってください。「ありがとう」の旗を。

オリンピックの開会式で見た、あの小さな心遣い。それは、世界に向けたメッセージでした。卒業するみなさんも、これからそれぞれの舞台に立ちます。どうか、自分の夢を高く掲げながら、周囲への敬意を忘れない人でいてください。旗を二本持てる人は、どこへ行っても愛されます。そしてきっと、どんな場所でも、堂々と歩いていけます。もうすぐ卒業式。さあ入場行進へ。